

広報 のあさひ

No. 33

昭和45年6月10日



《早く健やかに》

このほど、左沢高校朝日分校の生徒さん（家政科）たちが朝日病院を訪れ、入院されている人たちを慰問した。同高校では、まい年社会学習をかねて施設の慰問をおこなっているもので、ことしも担任の後藤先生に引率されて、手に手に

小遣銭を出しあって求めた花びんや切花を持って病院を訪れた。そして、各病室を廻り、花を活けたり慰問品を贈ったりして「一日も早くお元気になって下さい」と入院されている人たちを激励した

＜（写真・各病室に花を活ける生徒さんたち）＞

新しいまちづくり

センターの青写真でできる

役場庁舎も併設

山村開発センターの建設予定地が決まったことについては、先月号のこの欄で紹介したが、今月は建物の構造など、その後に明らかにされた山村開発センター並びに庁舎の青写真について紹介してみようと思う。

建設予定地が決まったあと、どんな構造の建物にするかについては、事務局ならびにセンター建設特別委員会が中心となって、検討をおこなっている。

さる五月二十八日には、区長会婦人会、青年、学校、農協、農業団体などの代表者および教育委員それにセンター建設特別委員をまじえての協議会を開き、設計についての細部検討をおこなった。

協議会では、事務局から出された仮設計画にもとづいて意見の交換が行なわれ「センターと庁舎は区別すべきだ」「センターは町民が気安く使用できるように、入口など配慮すべきだ」「大集会室をもっと広くできないか」「冷房施設を考えるべきでないか」といったような意見が多く出された。

町当局では、そうした意見にもどずいて更に細部検討を行ない、

今月中に開かれる町議会で正式に青写真の決定をすることになっている。

現在までに固まっている構想としては、完成予想図にもあるように、鉄筋コンクリート造りとし、開発センターの方は二階建て、庁舎の方は三階建てとすることになっている。

開発センターの構想

現在予定されているセンターの構想によると、一階がセンター事務室、第一および第二研修室、談話室、それに宿泊もできる娯楽室生活改善実習室、浴室、管理人室などがつくられる。

二階には、大会議や演劇発表、(ダンスや卓球などの軽スポーツの場としても利用できる)生活実習室、食堂、図書室、郷土資料室

保健相談室、小会議室などがつくられる。

庁舎の配置構想

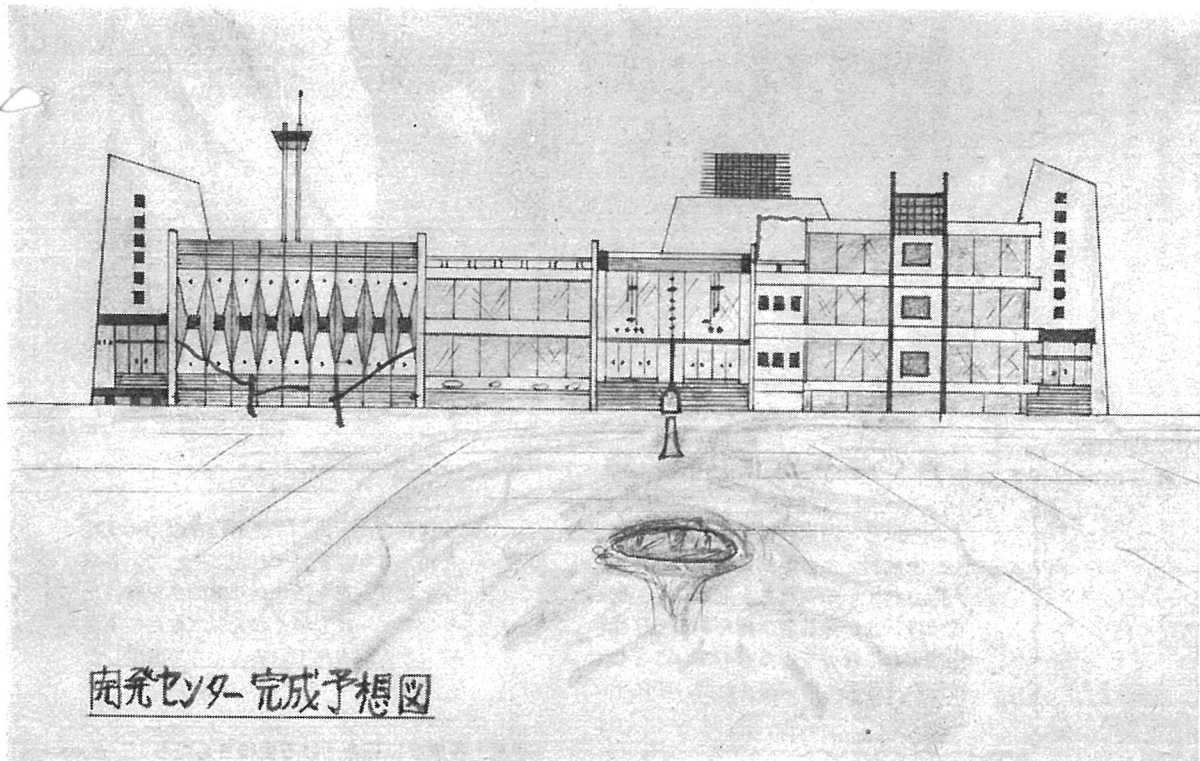
いっぽう役場庁舎の方は一階が住民課、振興課出納室などの窓口関係の事務室、職員ロッカー、手洗、書庫などがつくられる。

二階には管理課、税務課、建設課などの事務室計算室、町長室、応接室職員休けい室などを予定している

三階はおもに議会関係で、議会の事務局、議場、会議室(三)議長室、議員控室などを予定している。

以上が開発センターおよび庁舎の構想のおもな内容であるが、正式な青写真については次号に紹介してみたい。

「下は正面(西側)から見た完成予想図」



開発センター完成予想図

もう一つの誘致工場まる

KK朝日相扶製作所

業誘致の必要性がしきりと叫ばれるようになった。企業誘致ではことしの春に町の誘致工場として丸吉山形工場が完成し、すでにフル操業にはいつている。

出かせぎ者が とりもつ

ところで、こんどスチール家具では国内でも一流メーカーである株式会社オカムラの工場誘致が本ざまりとなった。

こめの作付調整による一割減反(転作・休耕)がおこなわれ、農業の姿が大きな変ぼうをとげようとしている。そんな動きが、毎日のように新聞やテレビに報じられて

誘致がきまったこの工場は、毎年オカムラに出かせぎに行っている人たちの「なんとか朝日町にも工場を持ってきたい」という願いがきっかけとなり、岡村社長の奥さんが戦時中能中に疎開されていたという縁故もあって、出稼ぎ者の熱意と岡村社長の好意とによって誘致が実現された。

工場の建設場所は、図に示すように、山村開発センターの予定地である国道沿いの通称「たねまきざくら」の地点に決定している。現在予定している工場の規模は三千六百三十平方メートルの敷地に、工場・事務所・従業員休けい室など延べ五百平方メートル(第一期)分の施設を九月末頃までに完成させる。従業員は、はじめ三十名でい

十月には 操業を開始

で操業にはいり、将来は百五十名と二百名でいどに拡張してゆく計画だという。

また、同工場における業種は、椅子・ソファのカーバー・レザーの縫製など第一次工程的なものを考えているが、今後は工場の拡張とあわせて、全工程を朝日工場で行えるようにしたいと考えている。

丸吉の工場誘致に続いて、オカムラ家具の工場誘致に成功したことは、これからの新しい町づくりの立場からその意義は大きなものがある。

農免道路の落成式

今後の活用が期待される

農免道路芦沢線の落成式は、さる五月十五日水本小体育館でおこなわれた。

落成式には、板垣副知事、西村山地方事務所長、垂石県議などの来賓をはじめ、志藤町長、鈴木議長など町の関係者、山辺、白鷹両町の関係者多数が参加して、農免道路の完成を祝いあった。

この農免道路の工事は、農業用揮発油税の身替りによる農道整備事業(略して農免道路)によるもので、さる四十一年から四力年継続事業として進められてきた。

送橋小学校の地点から、下芦沢水本を経て白鷹町中山まで、総延長は八千八百三十四米、投じられた費用は一億一千五百八十万円、この種の道路としては県内一の規

のがある。町でも、過疎対策の立場から企業誘致をおこない、農工一体の町づくりを進めようとしており、農家の方もこうした誘致工場に積極的に勤められて農外所得の増大をはかってほしいと望んでいる。

とくに、こんどオカムラ(相扶製作所)の場合は、中高年の男子でも大いに歓迎しており、農業をやめて転業する、あるいは出稼ぎをしないで働きたいといった方には最適の職場と言えそうだ。

模をほこる、すばらしい農免道路ができあがった。

この農道の完成によって、沢内水本地区の農業振興が大きく期待されるばかりでなく、白鷹、山辺町への連絡道路網として果たす役割りも大きく、今後の活用が期待されている。

町誘致工場建設予定地略図





これがらの米づくり

西舟渡地区をたずねて

米の作付調整など、いまのわが国の農業は、その姿を大きく変えようとしている。そこで今月は、こうした激動の中にあつて、部落ぐるみで水田の基盤整備と取り組んでいる西舟渡地区をたずね、部落の中堅にある人たちに「これからの米づくり」をテーマにして話しあつていただいた。

部落ぐるみで基盤整備

生かしたい協業化

まずはじめに、西舟渡地区の状況について少し紹介しなければならぬ。西舟渡は、最上川岸の平地にあつて、地理的条件には比較的めぐまれていると言える。

戸数は五十二戸、そのうち農家は四十戸である。しかし、その四十戸の農家のほとんどが兼業農家で、専業はわずか十パーセントにすぎない。とくに西舟渡は、耕地面積が少なく、水田の平均耕作面積は三十坪でいかにすぎない。そのために、近年は農業に従つて他の職を主とする第二種兼業農家が多くなつてきている。

ところが、耕地の少ないこの西舟渡では耕地の基盤整備がすすめられており、昭和三十五年には表地区約十四ヘクタールの耕地整理を行なつた。そしていま、カラクリ果沼などの基盤整備と、部落ぐるみで取り組んでいるのである。

西舟渡は、耕地整理が非常にすすんでいるように思うが、どうした事情からだろうか。

若月(慶) いろんなことはあつたが、一つは農道がなかったということだろう。前には物を運ぶにもすべて背中で運ばなければならぬ非常に不便だった。なんとか農道

出席者(順不同)	
海野 哲さん	(区長)
鈴木 慎三さん	
鈴木 孝一さん	
鈴木 享さん	
若月 慶一さん	
鈴木 昭さん	
若月 正義さん	



若月 慶一さん

をつくらうという気運がもり上つたが、農道だけでなく、いつそのこと耕地整理までもやつてしまふべきでないか、ということになつた。表地区の耕地整理をやつたのは十年も前だが、本当にやつてよ

かつたと思う。田植えや防除、あるいは秋の収穫でもどれだけ便利になつたかわからない。他地区には未整理の田んぼが多いが、なんと耕地整理をやらないのか不思議

なくらいだ。ぜひやるべきだと思う。

基盤整備をしなればならなかつた事情はわかつたが、それをすすめるには相当の困難もあつたと思われるが……

鈴木(昭) 確かに表地区のときはかなり苦労されたようだ。耕地整理をやると言つても多額の費用がかかるわけだし、反対者も多かつた。しかし、今ではみなやつてよかつたと言つてゐる。

鈴木(孝) たしかに耕地整理をやつてよかつた。共同防除も整理してからは本当に楽になつた。

——こんどの作付調整ではかなりの打撃をうけたと思うが……

海野 いまやつているカラクリの耕地整理の計画は何年も前からのものだ。だから米がいらぬといふこんな状態になつたとしても、途中で止めるわけにはゆかなかつた。しかし、こんな情勢にあればあるほど、基盤整備は必要だと思



う。

今年は、実質的には米価がすえおかれた形になつた。来年だつてどうなるかわからないだろう。そうしなければならぬから、生産コストを下げることを考える必要がある。その意味でも基盤整備はぜひすすめなければならぬと思う。

若月(慶) このたびの作付調整は大きな痛手だ。基盤整備をやつたのは確かによかつたが、借金は返して行かなければならぬ。農家として米を増産するのは当り前だが、米を作るなどというのはどうも納得がゆかない。食管を守るといふ立場から、減反には協力せざる

を得ないが、こんな農政のあり方



鈴木 慎三さん

では困るんじゃないか。

——作付調整は来年もやる、と新聞に出ていたが、これからは米が不足するという事態は来ないのではないか。やはり、これからの農業、あるいはこれからの米つくりのあり方というものを、根本的に改めて行く必要があると思うが、海野 確かにそうだろう。今は食生活も大きく変わってきている。みんなが米を食わなくなってきた、ということも十分考える必要がある。

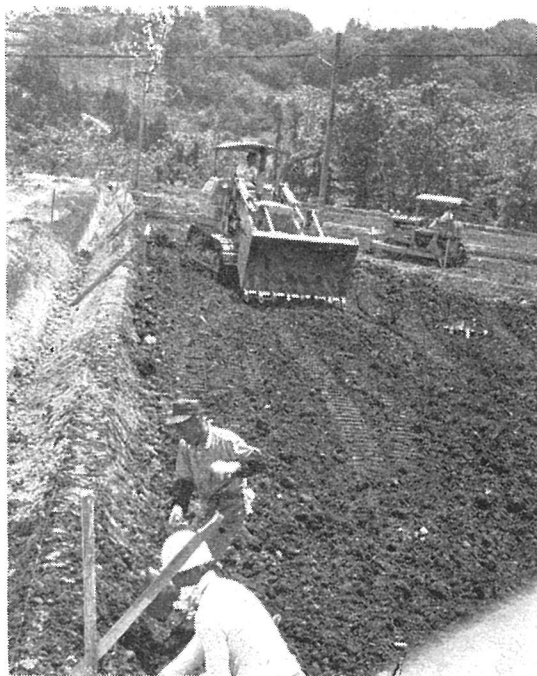
若月(正) 今まで豊作続きた、などと言われていたが、豊作だけでなく、農家の米を作る技術がそこまで向上しているんじゃないか。

これからは

省力農業で

海野 いま、これからの農業のあり方を改めて考えて行くべきだと言われたが、やはり、協業化による農業をもっと考える必要がある部落でも、基盤整備を共同でやってきたこともあって、協業化の気運がはじめている。

鈴木(慎) やはり、これからの農



海野 哲さん

業は協業あるいは共同でなければやって行けなくなってしまう。部落では、耕地が少なくて開こうとして規模拡大をしたいと考えているが、そうしたことも共同の力で行わなければならない。もっと共同、協業でやることを考えて行くべきでないか。

若月(慶) 確かにそうだ。組合をつくって耕地整理をすすめてきたが、このグループを単に耕地整理だけに終らせないで、協業化までもって行くようにしたいものだ。

鈴木(昭) やはり、これからの米

——いま、これからの農業は生産コストを下げることを考えなければならぬ。それには基盤の整備をやり、協業化をすすめることだという話が出た。協業化には人間関係が一番むずかしいと言われているが、その辺はどうだろうか。

海野 確かにそれは、簡単ではないかも知れない。しかし、先にも出たように、西舟渡ではこうした基盤整備の事業をみんなの協力で進めてきたという実績がある。みんながその気になれば難かしいことではないと思う。

秋には

共同炊事を

海野 西舟渡は昔から耕地が少なかった。規模拡大するにも限界だし、みんながみんな農業専業ではゆけない。結局、兼業ということになるが、それには農業の部門をできるだけ省力化して農外所得の増大を考えるべきでないか。

鈴木(昭) 協業といってもいろいろある。やれる面からやるべきでないか。たとえば共同炊事などは容易にやれると思うが……

海野 共同炊事はよい考えだ。公民館の施設もあるし、主婦の間でもそうした要望があるようだし、できるとすれば秋の農繁期には実現したいものだ。

農外所得の増大はかる

企業誘致も必要

——いま、転業の話がでたが、兼業農業の立場からも、農外所得をどこに求めるか、重要なことだと思いが……

鈴木(昭) 兼業農業といっても冬



鈴木 享さん

請負ってもらえるとすれば転業してもよいと思っている。

——共同炊事を……とのことですが、みなさんの力でぜひ実現してもらいたいと思う。

鈴木(孝) 共同防除は前からやっているが、耕地整理も終つたし、やれば全面的に協業化できるんじゃないか。

若月(慶) やはり、やるとすれば部落全体ですめるべきだろう。それと同時に土地の交換分合も考える必要がある。

鈴木(享) 請負農業も必要ではないか。耕地が少ないのだから、農業をやりたい人には協業で農業をやってもらう。農業を止めて転業したい人の分は、協業組合で請負ってくれる。そうすればお互いに行きたくのではないか。自分も

期間の出かせぎが多い。やはり出かせぎでない収入の道を町でも考えてほしいものだ。

鈴木(慎) やはり、出かせぎしないで暮せるようになりたいと思う

それには男の人も働ける企業誘致を積極的にすすめてもらいたい。基盤整備なども単に基盤の整備だけに終らず、余ってきた労力をどこにふり向けるか、そこまで考えた施策が必要ではないか。



鈴木 昭さん

鈴木(孝) 企業誘致は当然考えてもらわなければならないが、農家自身も考えなければならない点がある。たとえば、農閑期だけ工場に勤めて農外所得を得たい、と考

必要な指導部門の強化

望まれる品種の統一

若月(慶) これは米づくりというよりも、今後の町の農業をどうするかということだが、町当局でも「これからの町の農業はこうやるんだ」といったビジョンというか農政の基本的な構想を示してほしいと思う。

鈴木(昭) 確かにそれは必要なことだ。それにもう一つ、指導部門の強化をぜひはかってもらいたいと思う。こんどの減反にしても、どんなものに転作すればよいのか具体的な指導がほしい。何を作れ



鈴木 孝一さん

と言えないにしても、これを作ればこうなる。この作物はこうでないかといったように、情報を教えてくれたり相談あい手になってもらいたかった。農協の指導部門が弱体なのも困る。もう少し農民の

えている人が多いが、そうしたことを企業側では非常に嫌う。やはり、基盤整備や協業化によって省力化し、家族のうちの誰かひとりあるいは二人を年間を通して勤めさせる、といったように考え方を改めて行くべきではないか。

西舟渡地区では基盤整備が進んでいるが、耕地が少ない。そのため兼業にしなければならぬ。協業化によって省力をはかるとともに、農外所得の道を考えてゆく。それには、町でも企業誘致を積極的にすすめて行くべきだ。といった話し合いをいただいた。ここでもっと町全体の立場に立った「これからの米づくり」としてはどんなことが必要だろうか。

ための農協になってもらいたい。鈴木(慎) たしかに指導部門は弱体だ。新しい農業に大きく前進しなければならぬときに、こんな状態では困るのではないか。



若月 正義さん

農業の基本的構想がほしい。指導部門の強化が必要だ、といった意見が出たが、これからの課題として「うまい米づくり」の必要性が叫ばれているが――

若月(慶) たしかに同感だ。食管だっていつまでも続くとは考えられないし、これからは量よりも質消費者に好まれるうまい米を作る必要がある。売れない米ではどうにもならない世の中になったんだと思う。それには、品種の統一をぜひ考えるべきだろう。

鈴木(享) 確かに、今までは数えきれないほどの品種が作られてきた。やはりこれからは、多少収量がおちてもどこにでも売れるうまい米一品種にしぼるべきでないか鈴木(孝) やはり、一つの品種にすれば共同防除や肥栽培管理などもうまくできるのではないか。

海野 品種を統一するのは必要だが、いろいろ難かしい問題もあるようだ。しかし、西舟渡でもできれば来年から品種の統一をやりたいものだと思っている。それには今から話しあつて種もみの準備をすすめるべきだろう。

まとめとして

以上、西舟渡地区の方々に「これからの米づくり」をテーマに話しあつていただいた。作付調整や食管がいつまで続くか、といった問題もある。しかし、米は日本人の主食であることに変わりはないし今後米を抜きにした農業は考えられそうもない。ただ問題は、これからは、商品として売れる米を作らなければならないということだ。そしてまた、基盤整備をすすめ機械化や協業化によって省力化をはかり、農外所得を得ることもあわせて考えてゆかねばならない経営指導部門の強化も必要だ。といった意見や問題が提起された。米の問題は、食管制度にせよ、米価にせよ、町の段階でどう考えても解決できないものが多すぎる。これからの農政や米の情勢がどう変わっていくのか、想像し難いものがあるがしかし、私たちもこれからの農業のあり方、これから米づくりのあり方について、もう一度考えてみたいものだと思う。

五年年金の受付は今月で締切ります

明治38年4月2日から明治44年4月1日までの間に生まれたかたで、これまで一度も国民年金に加入したことのない人は、希望すれば今から加入できます。

加入した人は月七百五十円の保険料を五年間納めますと納め終った翌月から(65歳未満の場合は65歳から)月二千五百円の国民年金がもらえます。

しかし、現在恩給をうけている人などは加入できませんので、くわしい点については役場の住民係にお聞きになって、希望者は至急加入しましょう。

また、昭和三十六年四月一日で加入し、その後やめてしまった方も今月の末までに再加入ができます。この場合は加入期間が十年間必要になりますが、止めた時からさかのぼって期間が継続され、保険料もさかのぼって納めることになります。そして、65歳からもう年金額は月五千円、年額六万円の年金になります。

永年勤続者を表彰

商工会の総会開く

このほど、町商工会の総会が役場で開かれたが、その席上、町内の商店、事業所などに永年勤続められていた従業員の表彰がおこなわれた。

また、今年度の事業としては、昨年はじめて行なったダム祭りを今年度も予定通り行なうことにしたほか、七月には労務対策協議会をつくることになった。

とくに最近では、労働力の確保が難しくなってきたとあり、協議会をつくり、話しあいを行なって各事業所間の労働力の調整や確保をすすめて行くことにしている。

その他、賃金の協定、教育、福利厚生施設の充実についても、お互いに協力しあうて行くことを申しあわせた。

町長表彰

大東建設 KK 小関米吉 (25年)

むさしや 高橋友子 (10年)

納富洋服店 清野幸子 (10年)

会長表彰

白田製材所 大谷儀雄 (15年)

村山組 長岡芳松 (15年)

朝日建設 KK 長岡 恒 (14年)

丸モ製材所 川村栄八 (10年)

西五百川木材長岡玉子 (8年)

二見屋 森谷あい子 (5年)

KK 長岡屋 小松芳夫 (9年)

小坂屋商店 大泉輝夫 (7年)

東北電工 長岡健三郎 (7年)

ヒゲヤ 松尾みさ子 (3年)

ひぐち商店 田中善一 (3年)

川嶋本店 鈴木俊子 (3年)

佐藤さくら (3年)

よい子誕生祝金 三人目からもらえます

最近、人口減少が激しくなっており、とくに、出生児数が少なくなっている(多産を失くした)ことが人口減少に更に拍車をかけております。

そうしたことから県では丈夫な赤ちゃんをたくさん産んでいただくようにと、

今年四月からよい子誕生祝金を贈ることになりました。これは三人目以上の赤ちゃんが生まれた場合、よい子誕生祝金として出生届の際に三千円が贈られるものです。

朝日町でもすでに祝金が贈られた方が数人おられますが、該当されていの方で、まだお受けにならない方がおられた場合には役場の窓口にお出されるように係では望んでおります。



街をきれいに

ごみは
きちんと
ふくろに
つめて出し
ましょう。



困り事相談は お気軽に

朝日町の人権擁護委員として、つぎの方が法務大臣から委嘱されております。

皆さんの様々な人権問題など困った事がありましたら気軽に委員の方に相談ください。

今井孝一郎 (新宿)

大井 武 (太郎)

阿部 夫 (大谷)

町の財源となる
たばこは町内から
買いましょう

寄付採納

このほど、東北電力 KK より町に対して、あずまや(木造平家建七・二七㎡)一棟が寄贈された。

これは、上郷ダム公園内にある休憩所ですが、数年前から町ですすめているダム公園の整備で、すばらしい「公園」になっているが、このあずまやもぜひ整備してみんなのために利用してほしい、ということでも贈られたものです。

教育
レポート

《その15》

子どもの安全教育を考える

大切な家庭での指導教育

人間誰しも健康で楽しく、しあわせに暮したいと願わないものはない。しかし、ややもすると予期しない災害が突発的に起き、不幸をまねく恐れがあります。安全教育といえは、すぐ交通安全が考えられますが、広く家庭生活における安全および指導を考えてみよう。七月一日は国民安全の日。意義あることと思います。

やねの上でのあそび

宮小二年 若 松 英 子

きよねんのことでした。わたしは、たかしくんとおそんがいたがやねのぼつていった。やねの上に水をもつていって、いっしょにのんだ。とてもきもちが、よくつてうまかった。

水をなげたらだらだらになってたかしくんが、すべってころんで行きそうになった。わたしは、いそいで、たかしちゃんの からだをおさえてやったけど わたしのちからでは ひっぱることはできなかった。とうとうはなしてしまつた。わたしは

「木につかまって」と、さけびました。たかしくんはおちたのです。ちょうど じてんしゃにのつた人が とおりかかったの

「たかしちゃんが やねから おちた」と、さけびました。その人はすぐたかしくんのところへきてくささいました。しずえちゃんの おとうさんが、たかしくんをハイヤーでびよういんにつれていってくれました。

わたしもあけみちゃんや しずえさんといっしょに あとからかいていきました。

たかしくんはしんだいの上で、ふうふうと 大きくいきをしているので、なっているのかとおもいました。かおは青く、かわいそうだった。こんどから やねにあらがることはぜったいやめです。

もしも、やねにのぼっている子どもをみたら ちゅういしてやろ

うとおもいます。

この作文は宮小二年生の作文ですが、危険な屋根の上での遊びが事故をまねいたのです。幸に英子さんの急をつげる呼び声や、通行人や近所の方々の機敏な行爲と、病院の先生の適切な処置のおかげで、しばらくは意識のなかつたたかしくんも、四日位の入院で済み

家庭でも

安全教育を

学校では学年に合せて、安全生活に関する指導を行なうので、行動に移し、習慣化するまでには学校の指導だけでは不十分です。大勢のおとなの人たちの中には、安全教育は学校だけのものと誤って考え、安心しきっていることに親自身が気付かずにはいせんか。

安全に対する

家庭での指導は――

一、親やおとなはよいお手本を子どもは親の言うことはなかなか

かきかかないが おとなのすること。常によいお手本を示し、小さい時から安全に対して関心をよせ、心がけて指導していきたいものです。

「子どものしつくと、親の心がまえ」広報あさひ四月号」をもう一度よくお読みください。

二、実際の場に則してから

幼児をつれて道路を歩くにも、子どもを内側におき、手をひいて一緒に歩きながら、歩行のきまりや、道の横ぎり方、車への注意等その場で何度もしつけてやることです。感心した一例をあげますと

小学校に入学し間もない一年の子に、真新しい子供の自転車ののり方を広場で何日か練習させたあと町の中の交通量のある場所、父親が先に立ち後をふり返りながら道路での自転車の乗り方やきまりを実際に指導していました。一年生の子どもは内気で運動の巧み性は余りよいとはいわれないのですが、真に子を愛し、わが子が安全にこの世を生き抜けるよう願っておられる父親の姿だと思ひました三、禁止より正しい物の使用法



(宮小二年 長岡典子)

「危い危い」の過保護はだめ。子どもは生きている、成長が進むにつれて興味や関心が移っていくものです。新しい経験を積み重ねて成長して行くのですから、積極的に子どもの興味や行動に気を配り、物にぶつからせ、危険な物や場に対しての処置の仕方を考えさせましょう。

科学文明の世の中で、物や機械を充分に使いこなされるような芽を育てていきましょう。

四、きまりの大切さを教える

みんなで生活していく上にいろいろなきまりがあります。そのきまりを守ることがお互に迷惑をかけるために大切であり、自分自身を守ることにすることを教え、からだで指導してやりましょう。

五、安全を考えての準備や点検を作業するには作業の服装があり、用具を準備することが、作業

の能率をあげると共に安全につながることで。作業に対する心の準備や、ゆとりがでて来るからです。

自転車の点検を忘れず

宮宿中学校では、自転車で通学している生徒の自転車の一斉点検を業者に依頼し実施した結果、約百八十台のうち二十六台の自転車が不完全であることがわかりました。ブレーキの不完全はほとんどなく、ベル、ライトの不完全が多

くありました。学校側では不完全な自転車の使用を禁止、修理済みの車でのるよう指導しております。同校では年三回このような一斉点検を計画しておりますが、学校だけでなく、家庭の責任において、時折業者の点検や、のる前に点検する態度を指導して下さい。特にブレーキの故障は死につながることで

体力をつけ、防衛力を身につける禁止やきめごとだけで安全が守れるわけではありません。積極的に防衛力を身につけ、機敏性を養うような遊びを両親で考えてやるべきです。瞬間的に車がとび出しても身軽にその場から身を守る、守れるような子どもにしてやるべきです。又野外で存分遊んでやることは、とかくすると、とだえがちな親子の精神面の交流にもなると思われ

万一の時の準備も常に考えておきましょう。時には家庭内外の安全点検も心がけて実施したいものです。

急を告げる適切なことばを練習させる。

びっくりしたり、恐ろしかったりすると泣いてしまう子どもが多いが、泣く前に、急を告げる「助けて」とか「水に落ちた」「ひかれた」等を告げる適切なことばを子どもに大声で呼ぶ練習も大切です。ややもすると都合が悪いとだまってしまふことがあり、時間が経って取り返しつかない事故になる。気をつけましょう。

まとめていえば、理屈に走りがあるこの頃、現実とその差がある

ところに予期せぬ事柄が生じてくるのです。身をもって事に接することが、子どもの教育の中で一番大切なことであることを忘れないうようにしたいものです。

交通安全の指導を

交通事故の急増は交通戦争のことば通りで、交通安全、事故防止は国民の悲願でもあります。国民一人一人が交通思想を身につけ、実践するよう心がけることが大切です。次は大江警察署管内の交通事故の実態です。

実態調査から

。交通事故の型は自動車とバイクの関連事故が大半をしめている。死傷者の年齢別と居住地別朝日町は事故の件数に比し負傷者が多い。酒よ酔い運転による同乗



(宮小二年 長岡みゆき)

大江警察署管内の交通事故

区分	発生件数			死者			負傷者			物損事故
	昭44	昭43	増減	昭44	昭43	増減	昭44	昭43	増減	
大江町	32	30	2	—	—	—	36	35	1	23
朝日町	23	27	△4	1	1	0	32	28	4	11
計	55	57	△2	1	1	0	68	63	5	34

者の死傷が多い。また二十歳から五十歳までの働き盛りが半数以上

をしめている。

。子どもの事故、幼児、小中学生の事故

朝日町は皆無の記録をうち立てたことは、特筆され喜ばしい。

水の事故防止を

(イ) 危険な川や池での幼児の遊びを止めましょう。

(ロ) 用水池の金網設備を完全に水およぎは許可がでて、危険の少いきめられた場所

(ニ) みんなおおよげよう積極的に訓練していく

(ホ) 七、八才の子どもは、自分で助けようとする傾向がある、兄弟

農業事故の防止

で水死した例はこの期に多い

(イ) 農協などからの指示を守り保管は充分に

(ロ) 使用法の手落ちがないように。

(ハ) 共同防除の表示を忘れずに。

(ニ) 空びんの始末に留意する。

子どもに声をかける

運動を

昭和四十四年度は朝日町では、幼児及び小中学生の交通事故はなかったが、全国での統計によると非常に大きなパーセントになっています。

交通安全に限らず、子どもの危険な行為を感じたら「道路で遊ぶと危いよ」「子どもの火遊びは火事の元」等とまわりの人達が一声かけてあげる運動をおこしましう。我が子、よその子の区別なく見守り、子どもに声をかけてやるのが当然発したであろう多くの災害を未然に防いでいることになるでしょう。

幼児を水の事故

から守りましょう

つゆ時の
家畜管理



農作業メモ

手入れです。下刈りの時期がおく
れると、木の太さや伸びがおそく
なるばかりでなく、ツルがからん
でしんが曲げられたり、形が悪く
なったりします。

下刈りは、杉やアカマツの年間を通した生長経過と、刈り払われた雑草の再生力との関係をにらみ合せて、早めに行なうのがコツです。

雑草が再生する力は、春、夏、

▽つゆ時は、気温と湿度が高くなるため、飼料が腐りやすくなります。腐敗した飼料を与えると、中毒や消化器障害を起こします。

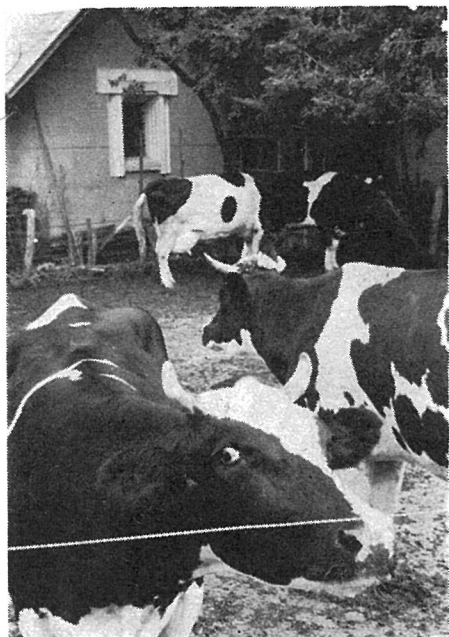
粗飼料だけでなく購入飼料でも雨の日に運んでぬれたものや、ペレット類の袋の破れたものなどはカビやすいので、注意しなければなりません。

▽畜舎の周辺に、尿溜の尿があふれていたり、雨水などがたまっていて、病原菌や病害虫が発生していると、畜舎周辺の水はけをよめますから、畜舎周辺の水はけをよくすることが大事です。また畜舎内の通風、乾燥にはとくに気をくばるようにします。

▽二等乳がでるのも梅雨期が多いので、しぼった牛乳は直ちにろ過してかきまぜながら、すみやかに十度くらい冷やすことです。

ツユあけの山の手入れ

梅雨があけると、造林地の雑木や雑草、ツルなどが繁茂してきます。これらを刈る下刈りは大切な



(大切なつゆ時の家畜管理)

耕うん機の事故防止

農業の機械化が進むにつれて、

クズの発生がひどいところは除草剤を使うのが得策です。

クズの発生がひどいところは除

- ◎ 運転中の燃料補給はしない。
- ◎ 耕うん機を駐車するときは、サイドブレーキを確実にこなう。
- ◎ 無理な運転をつつし、安全操

作を行なうような心がける。

以上のことを守って、事故防止に努めたいものです。

「男子家を出れば外に七人の敵あり」という古いことわざが

ありますが、現在では、「人間家を出れば外に交通事故あり」と言いかえなければならぬほど毎日、身近なところで交通事故がおきており、そのたびに、たくさんの犠牲者がでております。

万一、交通事故に出会ひ大けがをしたとき、またそれが原因で大病をわずらつた場合、国民年金の加入者には大幅に引き上げられた障害年金が支給されます。

二級の障害に該当する人には現在の年六万円が九万六、〇〇〇円に、一級の障害者には七万二、〇〇〇円が十二万円になります。

また、不幸にもご主人が死亡したときには、国民年金に加入していた奥さんと残された子供さんたちに**母子年金**、あるいは子供さんだけなら**遺児年金**が支給されます。

母子年金は、子供さんが一人の場合は、五万五、二〇〇円であったのを九万一、二〇〇円にまた、遺児年金は、残された子供さんが一人の場合は三万円であったのを九万一、二〇〇円にそれぞれ引き上げられました。

来月から年金額が

また、被保険者が死亡されたときは、三年以上保険料を納めておりますと、最低一万円から最高五万二、〇〇〇円の死亡一時金が遺族に支払われます。

将来、お年寄りになったときに生活が保障される老令年金は二十五年間保険料を納めた場合現在の年六万円が九万六、〇〇〇円になりますし、二十才から

五十九才までの全期間四十
年納付した場合は、九
万六、〇〇〇円が十五万
三、六〇〇円に大きく引
き上げられます。

このように、わたしたちの国民年金は、現在より六割以上も高い年金額が七月から支給されますが、これに対して保険料

引き上げられ、現在、
年令によつて月二五〇円
と三〇〇円に区分されて
いるものを、七月から年
令の区別なく四五〇円の

保険料を納めていただく
ことになります。

わたしたちの老後の生活のために、また思いがけない事故に備えて忘れずに、保険料を納めておきましょう。

また、所得がないなどの事情で保険料を納められない場合は免除の制度があり、免除された期間については十年間だけさかのぼって追納する事もできます

真剣な消防演習

火災発生時に備える



(本番さながらの消火訓練)

ことしの春季消防演習は、さる五月六日宮宿中央通りを中心としておこなわれた。

がくりひろげられた。そのあと、分裂行進を行ない、豊竜グラウンドで表彰式、訓示、講評などがおこなわれて春季消防演習を終った。

表彰された人たち

▽日本消防協会会長表彰

精績章 副団長 渡辺為之助

▽山形県知事表彰

ポンプ管理優良章

第一分団第一部

特別功労章 副団長渡辺為之助

功労章・副分団長 鈴木 収吉

" " 白田 総内

" " 二の一郎長大高 邦雄

" " 二の五部長佐竹 和雄

" " 三の二部長 川口 清治

功績章 一の二班長今井 賢司

" " 一の二班長今井 虎雄

精績章

一の三班长鈴木 啓一
一の四班长渡辺進太郎
一の五班长岡崎 光夫
二の三班长佐竹 誠一
二の六班长佐藤 昭
三の四班长遠藤 正幸
一の三班长渡辺 金二
一の三班长鈴木 正一
一の五班长岡崎 源吉
一の五班长村山 崇光
二の二班长阿部 二郎
二の三班长吉田すすむ
二の五班长阿部富美男
二の六班长小関 正巳
三の二班长川村 俊昭
三の二班长川口幸次郎
三の四班长志藤 清一
三の五班长堀 健吾

内助の功労者

松程 布施ミヤノ(団長婦人)

▽町長表彰

無火災部落 高田区(五十カ年)

ポンプ管理優良章

第一分団第四部(小型動力)

第一分団第五部()

一般協力者

真中 武田 賢蔵

西舟渡 鈴木 昭寿

和合 鈴木 やゑ

消防優良部

一位 第三分団第三部

二位 第三分団第四部

三位 第三分団第五部

体育協会の役員きまる

役員きまる

最近、町民のスポーツ熱が高まってきたが、こうした社会体育の推進母体である町体育協会では、このほど第一回目の理事会を開き、理事、役員の改選(任期は二年)をおこない、事業計画等について話しあいを行なった。

その結果、規約の一部改正をおこない、副会長を三名に(一名増員)、事業部を七つに(一部増)して、さらに充実した社会体育の推進をはかることになった。

新しい役員名

会長 白田八十二(大谷・再)

副会長 海野武(西町・再) 同 鈴木鉄男(大町・再) 同 鈴木収吉(大町・新)

理事 ◎印部長 ◎印副部長

▽剣道部 ◎白田清次(役場) ◎相座孝雄(西部) 鈴木欣一(送橋小) 清野寿郎(大谷小) 渡辺勝(大谷中) 白田八十二(大谷)

▽柔道部 ◎鈴木清次郎(大町) ◎鈴木正巳(松程) 清野啓三(左沢高朝日分校) 成原芳一(前田沢)

▽野球部 ◎堀重雄(朝日局) ◎武田正(役場) 菅井正則(和)

合) 大泉繁雄(西小) 村上宗紀(宮中) 原喜内(役場)

▽卓球部 ◎大井忠夫(宮宿局)

○高林格(大沼分校) 渡辺隆生(役場) 小国東紀(西中) 浅井周作(元町)

▽バレー部 ◎鈴木収吉(大町)

○宮本建一(町教委) 菊地円治(宮中) 渡辺藤男(宮農協) 高橋英治(朝日分校) 鈴木千代子(大町)

▽陸上部 ◎鈴木鉄男(大町)

○鈴木利和(大舟木) 海野武(西町) 白田俊子(大谷)

▽レクリエーション部 ◎遠藤四郎(栗木沢) ◎阿部美喜男(役場) 上村昭夫(本町) 鈴木丈夫(朝日分校) 大高祐一(役場)

阿部幸作(常盤) 鈴木信一(助の巻) 渋谷一俊(北部出張所)

渡辺宏一(本町) 柴田千代(長沼)

監事 鈴木茂雄(町収入役)

榊寿太(町教育課長)

幹事 登坂盛高(教委) 熊坂正一(同) 鈴木正則(同)

主な行事

・町民釣大会(六月)

・町民登山大会(八月)

・町民海水浴大会(八月)

・野球大会(春秋)

・町民卓球大会(二月)

・町民バレーボール大会(二月)

朝日山岳会が発足

自然保護にも一役

このほど、山の愛好者たちがあつまって「朝日山岳会」を結成した。さる、五月三十日に初の総会を開き、役員の選出、事業計画などがおこなわれた。

発足した山岳会では、夏に登山技術やキャンプ設置などの講習会をおこなうほか、単なる登山愛好者の集いというのではなく、朝日の自然(動・植物・気象・地理・地質・歴史など)についてお互いに調査・研究をすすめて行くことになった。そして、自然の保護や登山道の整備などにも協力して行くことにしており、その意味でも、山岳会発足の意義は大きい。なお山岳会では多くの同好者の入会を

望んでいる。(事務局 役場振興課内大高祐一)

山岳会役員名

会長 松田庄治(立木)
副 阿部幸作(水口)
顧問 町長・助役・収入役・体協長・教育長
理事 海野武(西町) 渡辺隆生(前田沢) 阿部美喜男(大町) 関根美栄子(栄町) 石山勝三郎(高校)
事務局長 大高祐一(太郎)
幹事 阿部晃士(夏草) 小川澄夫(太郎)
監事 柴田彰亮(大町) 小野隆弘(大谷)

寒河江西村山が第3位

16回県縦断駅伝大会

第16回目を迎えた県縦断駅伝大会がこのほど行われたが、寒河江・西村山チームはよく健闘して三位入賞をはたした。とくにチームの一角として朝日町から参加した白川和春君(松程)・遠藤秀美君(栗木沢)の両君は、ともに区間新記録をつ



くるなど大活躍、チームの上位進出の原動力となった。
【写真 朝日中継所でタスキをうける西村山チーム】

国旗掲揚台を贈る

——和合小——

和合小学校では今まであった国旗掲揚台が古くなり、使えない状態で困っていたが、このほど同地区の人たちの協力により、新しい掲揚台がつけられた。

旗竿を鈴木庄次郎さん、石材を菅井喜一郎さん、石材工賃を鈴木昭寿さんがそれぞれ寄贈されたもので、PTA委員の努力奉仕などもあって完成した。同校の先生も生徒たちもこの新しい掲揚台の贈りものに心から喜んでる。

雑巾ありがとう

このほど、和合小学校に同地区の婦人会から雑巾百七十七枚、内ぼうきなどが贈られました。また、西部保育所にも常盤の安藤ヒデノさん(70歳)から雑巾百枚が寄贈されました。

社会福祉協議会に

贈りもの

このほど、西町の武田忠雄さん(町民生委員総務)が役場をおとずれ、「孫の出生祝をするかわりです。恵まれない人のために使ってください」といって現金一万円を寄贈された。寄贈をうけた町では、武田さんの善意に感謝し、早速町の社会福祉協議会に贈り、恵まれない人たちのために使わせていただくことになった。

戸籍の窓

出生

昭和45年5月1日～5月31日まで
部落氏 名 父名 続柄
和合 菅井 千春 勝四郎 長女
大沼 小林 和史 英俊 長男
上郷 長岡 久史 寛治 長男
大森山 阿部 礼二 健一郎 二男
宮宿 鈴木 久美 良一 二男
大谷 白田 博 健治 長男
太郎 長岡 紀昭 繁 長男
常盤 斎藤 幸吉 雄二 二女
上郷 松尾 篤史 亮蔵 二男
宮宿 菊地 千恵 利夫 長男
大滝 佐藤 幸夫 美代松 長男
太郎 今 敏也 覚 長男

死亡

昭和45年5月1日～5月31日まで
部落氏 名 年令 世帯主
大谷 東海林 吉之助 58 勉
中沢 五十嵐 みのり 18 藤雄
三 宮本 是 76 武
松程 佐竹 正勝 85 正一
大谷 長岡 いそ 57 五郎八
元町 鈴木 広治 78 治郎
大沼 最上 ヨシエ 72 広秀
大滝 柴田 ひで 73 昭一
三 鈴木 すみ 77 武夫

婚姻

昭和45年5月1日～5月31日まで
和合 大暮山
佐藤 八郎 阿部とめ子
和合 佐藤 一郎 阿部とめ子
佐藤 一義 清野 きよ
中沢 中沢
五十嵐政美 五十嵐千穂子
大沼 最上 広志 長岡 良江
宮宿 鈴木 俊夫 斎藤エミ子
常盤 誠一 渡辺初子
宮宿 布施 正一 荒木まさ子
下宮沢 渡辺 正行 渡辺 悦子
宮宿 鈴木 正則 加藤アツ子
大谷 白田 朝雄 阿部 時子
大沼 小林 昭吉 滝沢 恵子
古根 清野 勉 後藤 照子